

オホーツク会場

平成 30 年 10 月 17 日（水） 参加者 31 名

◆パネルディスカッションの概要◆

◆齋藤 昇一 氏（全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー）

- ・読書は、子どもたちが人生をより深く生きるための力を身に付けていく上で欠くことのできない活動である。
- ・学校図書館には、教科等で活用されることはもとより、子どもたちが安心・安全に過ごせる場であること、さらに、地域の文化施設としての役割も期待されている。

◆大林 誠司 氏（北見市教育委員会留辺蘂教育事務所生涯学習課長兼留辺蘂図書館長）

- ・公立図書館は、一人ひとりの市民の自立を支えるための知の拠点である。子どもの読書活動を推進するためには、子どもが家で当たり前の本を読めるよう、家庭の読書環境を支援することと、保育所や学校等、子どもが長く過ごす場所の読書環境の整備を図ることが大切である。

◆高橋 拓幹 氏（斜里町立斜里小学校教諭）

- ・全学年が国語や理科などの教科等において学校図書館を活用することとしている。また、児童会活動として図書だよりを発行したり、図書館司書や読み聞かせサークルと連携した取組を行うことで、子どもたちの読書意欲の向上を図っている。



【宮沢氏による提言】

◆宮沢 道 氏（「ルピナスの会」（湧別町）代表）

- ・子どもは、小さな頃から家庭で本に親しむことが大切であると考えていることから、町立図書館と連携・協働し、ブックスタート事業に取り組んでいる。また、自宅を開放して「ブックカフェ」を開設し、親子が安心・安全に読書活動を行うことができる居場所づくりを行っている。



「ぶっくん」からのポイント

- ・学校、公立図書館、地域の読書活動団体がそれぞれの立場や特性を生かし、連携して取り組むことは、読書活動の活性化にとって重要です。
- ・公立図書館が学校支援に積極的に取り組むことは、学校の教育活動を支える上で大切です。

◆フォーラムの内容を踏まえた事後の実践◆

【事例 1】斜里町～来年度よりビブリオバトルを実施！

- ・参加した教育委員会指導主事が、斜里町学校教育振興会の研修会において、子どもを本好きにする取組としての「ビブリオバトル」を紹介し、町内における普及・啓発を図ることができた。
- ・斜里小の第 5 学年が、ビブリオバトルを実施し、学校がその効果を実感できたため、次年度の教育課程にビブリオバトルを位置付けることを検討している。

【事例 2】紋別市南丘小～校内研修でビブリオバトルを体験！

- ・フォーラムに参加したことをきっかけに、教職員が校内のミニ研修会でビブリオバトルの体験を行い、第 4～6 学年でビブリオバトルを実施した。
- ・チャンプ本を子どもが自由に手に取ることができる場所に置くことで、読書に対する興味・関心を一層、高めることができた。



【ミニ研修の様子】



「ぶっくん」からのポイント

- ・ビブリオバトルがフォーラムの参加者により普及されることは、大変すばらしいですね。

留萌会場

平成 30 年 10 月 24 日（水） 参加者 19 名

◆パネルディスカッションの概要◆

◆佐藤 敬子 氏（全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー）

- ・学校において、日本十進分類法、目次や索引の利用の仕方について指導せず、学校図書館を活用した調べ学習を行い、子どもが混乱している状況が見られることがあることから、その改善を図る必要がある。
- ・校務分掌の図書系の文書が学校図書館の全体計画等であると勘違いしている教員がいることから、各校において全体計画等の様式などの再確認を行う必要がある。

◆春日井 寿美子 氏（羽幌町教育委員会社会教育課図書係長）

- ・学校図書館の予算を獲得するには、町の財政担当に対して、学校図書館の古い本を提示したり、「社会科の授業では、百科事典が必要」、「道徳科の授業では、伝記が必要」など、授業を実施する上での教員や児童生徒の声を届けることが効果的である。また、実際に学校図書館の現状を確認してもらうのもよい。



【パネリストの方々】

◆加納 克則 氏（羽幌町立羽幌小学校教頭）

- ・蔵書管理や朝の読み聞かせボランティア派遣等に係り公民館図書室との連携体制を構築したことで、児童の読書環境が充実した。
- ・学校図書館の年間活用計画に基づいて取組を展開したことにより、学校全体で系統的・体系的に読書活動を推進できたとともに、PDCA サイクルに基づき、取組の改善を図ることができた。



「ぶっくん」からのポイント

- ・学校図書館の予算を獲得するためには、具体的な学校の現状や教員及び児童生徒の声を伝えることが重要ですね。
- ・学校において読書活動を充実させるためには、学校図書館に関する各種計画に基づき推進することが大切ですね。

◆フォーラムの内容を踏まえた事後の実践◆

【事例 1】 天塩町～学校図書館の環境整備を充実！

- ・学校図書館の図書を整理したり配架の工夫を行ったりすることの重要性を学んだことから、校内にお薦め本コーナーを設置し、児童が気楽に図書に触れることのできる環境づくりを行った。

【事例 2】 初山別村～校内研修でビブリオバトルを体験！

- ・フォーラムに参加して、学校図書館の環境整備を図ることの重要性を改めて認識したことから、教育委員会に学校図書館の現状を説明するとともに、図書購入について要望した。
- ・小学校及び中学校において、ビブリオバトルを校内研修で実施し職員に周知を図るとともに、次年度に向けて児童生徒が実施することができるよう準備している。



【フォーラムでのビブリオバトルの演習】



「ぶっくん」からのポイント

- ・児童が自ら本を手取るため、校内に「お薦め本コーナー」を設置するなどの工夫を行うことは大切ですね。

釧路会場

平成 30 年 10 月 29 日 (月) 参加者 32 名

◆パネルディスカッションの概要◆

◆佐藤 敬子 氏 (全国学校図書館協議会学校図書館スーパーバイザー)

- ・学校における読書活動の推進に当たっては、学校図書館ガイドラインに基づき、学校図書館長である校長のリーダーシップの下で教職員が連携を図り、学校図書館の環境を整えるとともに、計画的に学校図書館を活用した授業を推進する必要がある、その中心的な役割を担うのが司書教諭や学校図書館担当教諭である。
- ・地域等との連携を図った読書活動を行うには、まずは、関係者で目指すべき方向性を話し合う場を設定することが重要であるとともに、「とりあえず、できることからやってみる」という気楽な気持ちで進めることも大切である。

◆川原田 恵 氏 (厚岸情報館主幹)

- ・本館は、地域の読み聞かせボランティアサークルと連携し、保育所での読み聞かせ、中学校におけるブックトーク、4か月健診時のブックスタートなどの活動を実施している。



◆寺田 裕子 氏 (釧路市立中央小学校教頭)

- ・学校図書館年間活用計画等に基づいた子どもの読書活動を推進するとともに、PDCAサイクルによる取組の評価・改善を通して、読書活動の質の向上及び活性化を図っている。
- ・ボランティアによる多大な支援により、読み聞かせ活動や図書館の環境整備の充実が図られている。
- ・釧路市中央図書館との連携を図り、授業に必要な図書資料等の団体貸出の支援や図書館における学習を実施している。

◆佐々木 由香里 氏 (釧路町「さくらんぼの会」代表)

- ・町内の小学校における読み聞かせをはじめ、ブックスタート事業を含む親子対象の読み聞かせ、地域のクリスマス会における紙芝居などを実施している。



「ぶっくん」からのポイント

- ・連携した取組を行うためには、関係者で読書活動の方向性や目指すべきゴールなどの共通理解を図ることが大切です。
- ・学校だけでなく、地域の様々な団体等が色々な場面で子どもの読書活動の推進を図ることが重要です。

◆フォーラムの内容を踏まえた事後の実践◆

【事例】 釧路町～町教委と読み聞かせサークルとの連携！

- ・フォーラムに参加した教育委員会担当者が、地域の読み聞かせサークル「さくらんぼの会」に対し、例年12月に釧路町公民館が実施している「クリスマス会」への連携を呼びかけた。
- ・連携を承諾したサークルは、大型絵本の読み聞かせを計画するとともに、教育委員会担当者は道立図書館に大型絵本の貸出を打診し、当日、子どもたちに読書のすばらしさを伝えることができた。【クリスマス会の様子】



「ぶっくん」からのポイント

- ・フォーラムの参加者が読書活動の大切さを理解し、地域のボランティアに具体的な取組を依頼したことは、すばらしいことです。